

VOL.190

農協からのお便り

1
2024

グリーン
Green
地域と農業をむすぶJA広報誌

新春

健やかな
年になりますように



この会報は、環境に配慮する
取組みの一環としてFSC®
認証紙を使用しています。



JA 上川中央

URL <http://www.ja-kamikawa.or.jp/>



新年のご挨拶

上川中央農業協同組合
代表理事組合長 大村 正利

2024年（令和6年）の新春を組合員の皆様、並びに関係機関の皆様と共に健やかに迎えられました事を心からお慶び申し上げます。また、日頃より農協事業に対しまして多大なご理解とご協力を頂いておりますことに対しまして、改めて敬意と感謝を申し上げます次第であります。

さて、昨年は5月にコロナ感染症の位置付けが5類に移行になり、人流の増加による経済の活性化が期待されたところですが、

反面、長引くロシア・ウクライナ紛争や円安など、農業生産に欠かせない生産資材や飼料、燃油の価格の高止まりに不安の多い年でもありました。

そのような中、農産物については春先に一時天候不順もありましたが、その後は概ね順調に推移し大いに期待されたところでありました。夏場からの異常な高温・猛暑の連続が各作物の収量や品質の低下を招いた結果となりました。

米についても、作況指数は104と発表されましたが実感としてそこまではないなというところ、全道的に昨年と比較して低

タンパク米の比率が大きく低下したところでありましたが、春先の出荷契約を上回る集荷を頂きました事は生産者各位のご努力とご協力の賜と厚くお礼を申し上げます。

このご、青果物、雑穀、生乳などにつきましては、やはり猛暑の影響を受け、取扱高合計は若干予定を下回りましたが、改めて生産者各位のご理解とご協力を敬意と感謝を申し上げます次第であります。

この様な現状の中、本年に向かいはましては、まだまだ不安定な世界情勢や、国内情勢、肥料価格は少し下がりますが、まだ値上がり前の状況には戻らず、生乳価格も改定されたとはいえず、高止まりする飼料価格をはじめとする各生産資材のコスト増、各交付金の見直しなど懸念材料が多々ありますが、農畜産物の再生産可能な価格転嫁、食料、エネルギー、経済の安全保障に向けて、「食料・農業・農村基本法」も改定されます。

JAも組合員の皆様と一丸となって課題を乗り越えながら少しでもメリット還元が出来得る事業の展開を推進してまいりますので、改めてご理解とご協力の程をお願い

い申し上げます。

今年（甲辰）にあたり「甲（きのえ・たつ）」にあたり「甲（きのえ）」は物事に対して耐え忍ぶ状態、生命や物事の始まりも意味するといわれ、「辰（たつ）」は自然万物が振動し草木が成長し、活力が旺盛になる状態を表すそうです。経済界では景気が良くなる、「戌亥の借金、辰巳で返せ」といわれるそうです。

そんな意味にあやかかって停滞している世の中が文字通り「昇り龍」の年になることを切に願うところ

です。今年7月には20年ぶりに新デザイン（の紙幣が発行されます）。

この「変革（転機）」が良い方向に時代が動くよう皆で願いましょう。

結びに、本年が組合員の皆様をはじめ、各関係機関の皆様やすべての方々のご健勝と平穏で希望と喜びに溢れた年となることを念願いたしまして年頭のごあいさつとさせていただきます。

本年もどうぞよろしくお願い致します。

謹賀新年



代表理事組合長	大村 正利
常務理事	木村 悦明
理事	岩城 一憲
理事	伊藤 章一
理事	青木 光晴
理事	松岡 康弘
理事	武田 明彦
理事	昔農 昌人
理事	遠藤 初美
信用担当事務 兼金融部長	高橋 勝彦
代表 監事	田中 敏明
監事	高田 峰雄
員外 監事	高柳 修



令和6年の年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会
代表理事会長
樽井 功

新年あけましておめでとございます。
組合員の皆様におかれましては、

日々営農に更に邁進されておられること存じます。

また、組合員・役職員の皆様が一丸となり地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対し、改めて敬意と感謝を申し上げます。

昨年の北海道農業については、春先は天候に恵まれ地域によって降雹被害や竜巻の被害が見られたものの、概ね、平年並みに推移しておりました。しかしながら夏場は猛暑による記録的な高温多湿の影響を大きく受け、各作物の生育自体は、一般的に平年よりも早く進んできましたが、各作物等の収量および品質の低下が顕著となる残念な年でした。

新型コロナウイルス感染症の位置付けは昨年5月より5類に移行

し、コロナ禍以前の日常を取り戻しつつありますが、各農畜産物の消費は依然として低迷しており、さらに、国際紛争や急激な円安の進行による飼料・肥料をはじめとした生産資材の高止まりが、農業経営に与える影響は甚大なものとなっております。

さらにこれらの影響を受け、世界の食料需給事情が一変しました。輸出制限を行い、自国の食料を確保する各国の動きが活発化し、世界的な人口増加による食料不足問題など食料争奪合戦がすでに始まっています。我が国の食料を安定的にどう確保するのか。今こそ大いに食料安全保障の国民的議論が必要となっております。

現在、日本の食料自給率は38%しかありません。

これは、世界の先進国の中で最低の水準であり、6割以上の食糧を輸入に頼っているのが日本の現状です。

食料安全保障の強化が国家の喫緊の課題であることから、我が国の食料供給基地である北海道農業が果たしてきた役割、そして北海道農業への期待は、今後ますます大きくなるものと考えております。

J Aグループ北海道は、日本の食料基地であるという使命感に立ち、食料の安定生産・安定供給と農畜産物の需要拡大を両輪として引き続き取り組むことが重要であり、国民の命の源である食を守り続けるにも、まさに新しい農業を築き、未来の世代へ繋いでいく必要があり、行政や全国連とも連携し、しっかりとその対応を図って参ります。

今年、第31回 J A北海道大会が開催されます。

また、第30回 J A北海道大会の実践最終年度であり、決議された将来ビジョンである、「北海道550万人と共に創る『力強い農業』と『豊かな魅力ある地域社会』

の達成」の成果をしっかりと検証し、次の J A北海道大会に繋げていく必要があります。

このような状況であるからこそ、協同組合運動の原点に立ち返り、相互扶助の精神に基づき互いに協力し、力を合わせこの難局を乗り越えることが重要となります。

消費者の皆様に対しては、今まで以上に農業・食に対する理解を求めため、J Aグループ北海道統一の情報発信のフレーズである「アグリアクション北海道」を浸透させ、より効果的な情報発信を行い、J Aグループが提唱する「国産消費」の認知を広めて参りましょう。

結びになりますが、本年は辰年です。辰年は陽の気が動いて万物が振動するので、活力旺盛になって大きく成長し、形がととのう年だといわれています。

この謂われにあやかり、本年が豊穰の年となること、皆様のご健勝をご祈念申し上げます。年頭のご挨拶いたします。





新年の挨拶

J A上川中央青年部

部長 奥 典大

新年明けましておめでとござい
ます。

昨年は北海道らしからぬ暑い年と
なり、作物の収穫に多大な影響があ
りました。

水稲も例外ではなく、収量・品質
共に天候に左右され、改めて1つ1
つの栽培工程を見直すきっかけとな
りました。

昨年5月からは新型コロナウイルス
スガ5類に移行され、全国的にイベ
ントが復活し、経済が回復する中、
当青年部も精力的に活動が出来まし
た。6月の豊穰祈願祭に始まり、愛
別町の神輿担ぎ、JICA意見交換
会、当青年部内での部員を講師とし
た勉強会、第2回農家めしレシピ作
り、百姓一揆炊きの実施、実績発表、
女性部との合同収穫感謝祭、町外視
察研修、全道大会での実績発表、J
Aあさひかわとの勉強会と、部員・
女性部・事務局の方々のご協力の下、
月1〜2回のイベントを順調に開催
することが出来ました。

6月のJICA意見交換会では、
各国代表の農業を指導する立場の
方々とディスカッションをし、貴重
な経験をさせて頂きました。7月の
JGAP取得済部員を講師とした勉
強会では、自らの経営の見える化や
農作業の安全確認、消費者や環境に
配慮する事等を学び、これからの農
業経営に欠かせない事項だと感しま
した。

9月には4年ぶりとなる愛別町の
きのこの里フェスティバルにて、諸
先輩方・部員・女性部が一丸となり
炊き上がったお米を完売する事が出
来ました。そして、何より力を入れ
たのが11月、旭川で行われた上川地
区大会での青年部活動を発表する実
績発表です。実績発表グループを結
成し、グループを筆頭に諸先輩方や
部員の意見を取り入れ、見事、優勝
する事が出来ました。

さらに12月、札幌で開かれた北海
道大会への出場が決まり、益々精度
を高めるべく、連日遅くまで練習を

重ねました。その甲斐あって発表者
の遠藤さん、パワーポイント操作者
の高井さんペアは、道内各地区の部
員が多く集まる中、物怖じせず堂々
と上川中央青年部のこれまでとこれ
からの活動への展望について、全力
で発表しました。

青年部活動とは、青年部役員・青
年部員・事務局・女性部・他JA青
年部組織・地域住民の皆様他、様々
な方のご意見ご協力があつてこそ、
充実した活動が出来るのだと改めて
実感する1年となりました。

部員の皆さまをはじめ、各関係団
体の皆様にはこの場をお借りして厚
く御礼申し上げます。これからも青
年部活動を通じて、多くの出会いか
ら生まれる新しい可能性を原動力
に、精進していく所存です。

末筆ながら、皆様の益々のご発展
とご健勝をお祈り申し上げます。こ
もに、新年のご挨拶とさせていただきます。

謹賀新年

青年部

- 部長 奥 典大 (愛別)
- 副部長 遠藤 雅大 (上川)
- 会計 大野 真治 (愛別)
- 理事 佐藤 直哉 (上川)
- 理事 岸田 一希 (上川)
- 理事 鉢呂 真人 (愛別)
- 理事 佐々木孝志 (愛別)
- 理事 岡田 恭兵 (愛別)
- 理事 橋本 脩平 (愛別)
- 監事 高井 啓 (愛別)
- 監事 阪本 航大 (上川)

女性部愛別支部

- 部長 藤村 仁美
- 副部長 上村 里佳
- 理事 菅原 敏子
- 理事 児島 正子
- 監事 渡邊 モト

女性部上川支部

- 部長 石山小百合
- 副部長 阪本 由美
- 副部長 福島 正子
- 監事 岸田 春代
- 監事 陰山 聖子



新年のご挨拶

JA上川中央女性部上川支部
部長 石山小百合

あけましておめでとございます。部員の皆さまは、健やかに新年を迎えることとお慶び申し上げます。また、旧年中は女性部活動に対して格別のご理解とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。新型コロナウイルスは、感染症法上の分類の見直しがされ、本来の生活が少しずつ戻ってきていますが、これからも感染対策を忘れずに行きたいと思っております。

昨年の女性部活動につきましては、7月に愛別支部女性部と合同で北海道ポールパークで、日帰り研修を行いました。スタジアムツアーでは、ファクターズガールの案内で、普段入ることのできないエリアも見学できて楽しいひとときでした。今度は、野球観戦でまた行きたいですね。

研修では農業学習施設「クボタアグリフロント」を見学し、食と農業の魅力・可能性を楽しくおいしく学ぶ農業学習施設で農業の多様性を学ぶことができました。

JA上川地区女性協議会が創立70周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。設立以来、歴代役員並びに部員の皆様、事務局に感謝と敬意を表するとともに、上川支部女性部も、部員一人一人が輝き魅力ある女性部を目指して行きたいと思っております。

最後になりますが、各関係機関の皆様には、本年も変わらぬご指導、ご鞭撻のほどを心よりお願い申し上げます。みのり多い年になります様、新年のご挨拶と代えさせていただきます。



新年のあいさつ

JA上川中央女性部愛別支部
部長 藤村 仁美

謹んで初春のお慶び申し上げます。

昨年の12月8日、JA上川地区女性協議会70周年記念式典が、ベルクラシック旭川で執り行われました。60周年からの10年間で、部員数が1003名も減少したこと、単組数も農協の合併などに伴い、18組織からは12組織になりました。式典では前回からの10年の間に尽力いただいた、元会長3名、副会長3名、中央会事務局1名の参加をいただきました。部員数の減少はたいへん寂しいことではありますが、諸先輩方の思いを胸に、初心を忘れず皆さんと共に未来を紡いでいきたいと改めて感じました。

コロナ禍も落ち着いた今、様々な行事が復活しています。夏祭り、きのこの里フェスティバル、宿泊研修など、皆さんの協力のもと、たくさんの方が再開できている事に感謝の気持ちがいっぱいです。お客さんが来てくれたら、ありがとうございます。愛別支部も高齢化の中、人数の減少に歯止めがかかりません。ですが、何事にも前向きに今年も色々な行事に取り組んでいきたいと思っております。

今年は、愛別支部と上川支部が合同で主催する上川管内JA女性部Bブロック研修会があります。参加される方々が楽しめる企画を考えてまいりますので、部員の皆さんのご協力をお願い致します。

各関係機関の皆様には、御指導御鞭撻いただき、大きく羽ばたける1年となるよう御祈念申し上げます。年頭のご挨拶と代えさせていただきます。

NOU
NEN



若い
今こそ年金
アクション!

若い農業者の方は、**国民年金の上乗せの
公的な年金「農業者年金」**に加入して
安心して豊かな老後を!

若い農業者の皆さん! 自分の老後 自分で守れますか?

ポイント

1

保険料は自由に選べる! (2万円~6万7千円、千円単位)
さらに、35歳未満であれば、

1万円からでも加入可能!

ポイント

2

認定農業者で青色申告者等には、

国庫補助で手厚い支援!

1万円の自己負担で2万円の積立てが実現!

ポイント

3

自ら支払った保険料は、

全額社会保険料控除の対象!

その他にも、税制面で優遇措置がある!

詳しくは…「農業者年金基金」

検索

<https://www.nounen.go.jp>



組合員のうごき

(令和5年11月24日現在)

正組合員戸数	197戸
総組合員数	2,115名
正組合員数	338名
うち団体数	34団体
准組合員数	1,777名
うち団体数	56団体

- 1日 JA畜産振興会 反省会(～2日)
- 4日 第3四半期 監事監査(～7日)
- 6日 愛別町青色申告会 税務研修会
- 7日 愛別町と菜振興協議会 胡瓜栽培講習
- 8日 第72回全道JA青年部大会
- 13日 上川高校町内事業者説明会
- 15日 第3回農家経済対策委員会
- 18日 愛別町と菜振興協議会 米ナス会議
- 21日 米麦協議会 役員会
- 25日 第4回農家経済対策委員会
- 29日 愛別町青色申告会 年末調整説明会
定例理事会
鏡餅贈呈(～26日)
仕事納め

JAのあゆみ 12月

棚卸による
営業時間変更のお知らせ

事業年度末の棚卸業務により、営業時間を変更させていただきます。皆様にご不便をおかけしますが、ご理解よろしくお願い致します。

〇1月31日(水)

- ・資材店舗(本所・支所)
- 休業**
- ・ホクレン給油所(愛別・上川)

17:00まで短縮営業

第10回定例理事会

令和5年11月24日開催

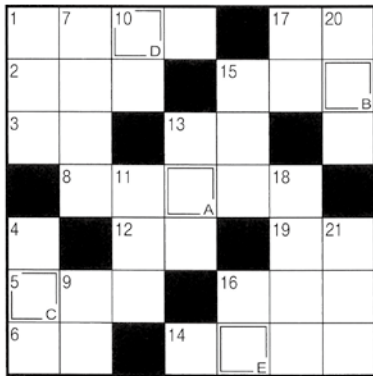
■報告事項

- 1 組合員の脱退について
4件の脱退について報告した。
- 2 余裕金の運用状況について
10月末実績の運用状況について報告した。
- 3 営農経済専門委員会の内容報告について
11月21日開催の内容について報告した。

■議事

- 1 臨時給与の支給基準について
12月支給予定の臨時給与について承認された。
- 2 ハウスリース資産の取得貸付について
6件の申込みについて承認された。
- 3 令和5年産飼料用米に係る仮渡金について
仮渡金額について承認された。
- 4 令和6年営農計画書審査方針並びに基準について
営農計画書作成に伴う審査方針並びに基準単価について承認された。
- 5 資金の融資について
3件の融資案件について承認された。
- 6 理事に対する資金の融資について
5名の理事に対する融資について、利益相反取引により該当理事退席のもと審議され、承認された。
- 7 第3四半期見直し計画について
10月末実績に基づく見直し計画について承認された。

パズル? 頭の体操



↓ タテのカギ

- 1 大学入学共通テストの理科の科目の1つ
- 4 キウイやポンカンが生産量が日本一の県
- 7 エッセーともいいます
- 9 かつお節や昆布で取ります
- 10 ガラガラとうがいをして洗うもの
- 11 ゆでた麺をざるにあげて行います
- 13 大股の人は広めです
- 15 カメやカッパの背に付いています
- 16 ——や硯(すずり)を用意して書き初めをした
- 17 カラオケで楽しむもの
- 18 ——の計は元旦にあり
- 20 旧暦1月の異称
- 21 見張ること。——カメラ

→ ヨコのカギ

- 1 おせち料理にも使うニシンの卵巣の加工品
- 2 旅行前に——ブックを買った
- 3 俳人が名作を生み出した地に建てられていることも
- 5 北を向いたとき西になる方向
- 6 丁寧にいうとご飯です
- 8 横綱を先導して土俵に上がります
- 12 セイウチの口からよっさり
- 13 農地——、道路交通——
- 14 DNAが含まれる体の設計図。——操作
- 15 猫が中で丸くなっているかも
- 16 不要物を可燃、——、資源ごみに分別した
- 17 彼女は——を言わず彼を外に連れ出した
- 19 エレベーターの表示では「B」

先月号の答え

1	ク	6	ツ	8	シ	タ	15	ソ	12	コ
2	マ	イ	ゴ	13	サ	バ	ク			
3	シ	チ	9	メ	ン	チ	16	ヨ	ウ	
4	ラ	7	イ	ブ	14	キ	リ	18	エ	
5	ク	キ		12	セ	メ	ン	ト		

解答	A	B	C	D	E
	シ	ク	ラ	メ	ン



「パズル?頭の体操」の答えの間違ひについて

12月号の「パズル?頭の体操」の先月の答えが「シクラメン」となっていますが、正しくは「カラスウリ」となっております。大変申し訳ございません。



今月の
オススメ

季節のもずく酢

材料(4人分)

もずく	300g
柿	1個
ゴールドキウイ	1個
おろししょうが	小さじ1
リンゴ	1/2個
かつおだし	300ml
薄口しょうゆ	50ml
みりん	50ml
酢	100ml
砂糖	30g

作り方

- (1) 合わせ酢の材料を混ぜ合わせ、鍋でひと煮たちさせ冷ましておく。
- (2) もずくは沸騰した湯に入れ、ざるにあげて、そのまま冷ます。
- (3) 合わせ酢の半量を(2)のもずくに入れ、1時間ほど漬けておく。
- (4) 器に(3)のもずくを盛り付け、柿、ゴールドキウイ、リンゴ、おろししょうがを盛り、合わせ酢の残り半量を注ぎ出来上がり。

健康 永山久夫の健康万歳!

おせち料理は長寿食

食文化史研究者・日本の長寿食研究者●永山久夫

昔はお正月が来ると、誰でも1歳、年を取りました(数え年)。その年取りを祝って、年神様と一緒にいただくのが「おせち料理」。

おせち料理には、タイやエビなど普段は口にできないぜいたくな料理が、何段もの重箱に山盛り。

これらの魚卵は美味なだけではなく、タンパク質が多く、ビタミンDやミネラルの亜鉛も含まれています。いずれも、インフルエンザや風邪などの感染症を防ぐ上で欠かせない免疫力を強化する働きがあります。

祝いさかなの中でも重視されてきたのが魚卵類で、何種類か必ず用いられています。数の子やすじこ、イクラ、たらこなどで、中でも重要なのが数の子。ニシンの卵巣を加工したものです。数の子という呼び名はニシンの別名の「カド」の子がなまったものですが、卵の数が多くことに由来するという説もあります。

イクラとすじこの赤い色素はアスタキサンチンという抗酸化成分で、脳や体の酸化を防ぐ成分として若返りにも役立ちます。イクラとすじこのどちらにも血液をサラサラにしたりの、物忘れを防ぐ成分も多く、お肌の若さを保つビタミンAもたくさん含まれています。

数の子の色が黄金色で、しかも卵の数が多く、山と積まれた金銀財宝を表しています。正月にふさわしいおめでたい料理として欠かせません。卵の数が多くは、たくさんの子宝につながり、子孫繁栄に結び付けられてきました。

そのまま食べても喉が鳴るのに、イクラをたっぷりつけて口に運びます。新米ご飯のほんのりした甘さをイクラが引き立て、夢中で3杯も平らげてしまいました。

おせち料理に用いられるサケの子のイクラやすじこ、それにスケソウダラの卵巣を塩に漬けたたらこ、ボラの卵巣で作ったからすみ、ウニなども色彩、数の多さが商売繁盛につながっています。

